

野山に鳥のさえずり聞こえ、梅の花が咲きほころんでいます。春本番がやってきました。

今年度はさらに新型コロナウイルス感染症が島根にも広がって、休園やクラス閉鎖などが続き、大変な状況もありました。困難な中でも島根の14か園は、交流や学びの機会、合同リズムなど、コロナの状況を見ながら時期を選び、工夫をして開催できるよう知恵を出し合い、活動や研修をしてきました。その様子を報告します。

松江・出雲地区 合同リズム

2月に最終の合同リズムを松江地区、出雲地区それぞれの会場で公開リズムをしました。出雲地区（下の写真）は、カミアリーナのメインアリーナを半分に分け、2つのコートに4園ずつが同時にリズムをすることができ、工夫した形で行いました。松江地区（上の写真）においては3年ぶりに松江市総合体育館サブアリーナで開催することができました。子どもたちは、友達の刺激をもらい、日に日に素敵なリズムになっていきました。自分の頭で考え、リズムをする子どもたちの目はキラキラしていました。みんな笑顔で交流できたことが何よりうれしいことでした。



出雲・石見部2園交流（大田こばと・おおつ保育園）

今年度は例年行っている芝滑り交流を、新型コロナ対応で保育園規模に合わせた2園で行いました。小規模園同士の大田のこばと保育園と出雲のおおつ保育園は、三瓶山の麓にある三瓶青少年交流の家で散策や、しっぽとり・長縄跳びあそびで交流をしました。初めは園で固まっていたが、園対抗しっぽとりをし、負けたら勝ったほうから3人を入れてするルールでやりました。そこから園の垣根がなくなり、帰る時には、名前もおぼえて呼び合い、「合同リズムでまた会おう」と言って別れました。今年初めての2園交流でしたが、少人数の集団で子どもも大人も自然の中でのびのびと気持ち良く過ごせた一日でした。



雄大な自然の中で交流をしました！



父母の会保育講座（神門保育園）



神門保育園父母の会では、事業のひとつに保育講座があり、以前は講師の方を呼んで子育てに関するお話を聞いていました。しかしコロナ禍になり講座の方法もどのようにするとよいか、検討しながら行っているところです。今年度は役員さんから保育園で大切にしている食についての話が聞きたいということで、今回は調理担当者が保育園での食についての話をすることになり、2部に分けて保護者に聴いてもらいました。

まず0歳児から年長児まで順番に食事をしている様子や、畑作りの様子など食に関する活動などビデオに撮ったものを観てもらいながら、担任から普段の食事の様子を伝えました。その後調理担当者から各年齢の子どもの食事について、また保育園の食事で大事にしていること等の話をしました。コロナ禍になり、以前行っていた試食会も行えなくなり、保育園の食事を伝えるにくなっていたところだったので、子どもたちが普段使っている食器、前日の給食、離乳食の前期から中期、後期、移行食の展示をし、実際の物を見てもらいました。また保育園でとっている天然のだしと市販の粉末だしの味比べをしてもらい、天然だしのうま味を感じてもらうこともしました。

最後保護者からは次々と質問も出て、食について関心の高さが伺えました。担当役員さんはこの後おたよりを出してくれ、感想をまとめたもの、講座で使われた資料なども載せ、参加できなかった方へもこの講座の内容を伝えてくれました。



保護者会主催研修会（松江こばと保育園）

2月4日（対象3歳児から年長向け）と2月18日（対象0歳児から2歳児向け）の2回に分けて、保護者会主催の研修会をしました。こばと保育園の前園長（錦織）を招いて“子育てに大切なこと”～働きながらの子育ては～についてお話を聴きました。働きながらの子育ては大変だが、子どもの意欲と自主性を大事にした生活をしてあげてほしい。自然体験がなぜ子どもたちにとって大事なのか。子どもたちが描く絵から子どもの姿を読み取るなどわかりやすく話してもらいました。卒園児の保育園時代のエピソードも盛り込みながら、子育ての素晴らしさや保育のおもしろさも話して頂きました。コロナ禍の中、クラス懇談会の開催回数が減り、また送迎は玄関対応となり保護者とじっくり話す機会も減り、職員は保護者に伝えたいことがどこまで伝わっているのかと感じていました。そのため保護者だけではなく、職員も一緒に研修会に参加できて大変良い学びの場となりました。保護者の方の感想は、子どものために出来ることをこれから頑張っていきたい！という思いが溢れていました。少しずつコロナ対応が緩み、以前の生活に戻りつつある中で保護者と共に学ぶ場を持ち、一緒に子どもたちを育てていくことが出来たらと思います。



三井野原スキー場でそり滑りをしました